

雑司が谷の森の物語 矢島勝昭

●「誰か網で小鳥を捕っている！」と突然顔見知りの奥さん。急いで散歩の犬といっしょに駆けつける。見ると霊園の墓石を跨いで張った畳3畳ほどの霞み網を震わせてメジロがもがいている。花屋さんからハサミを借りて、絡んだ糸を切つてやると、白い縁取りの目をくるりとさせて、お礼の温もりを掌に残して羽ばたいた。余談になるが、地名の「目白」は「城南に目黒（不動）あり、対して以後目白と云うべし」と将軍家光の台命があったとか、或いは昔白馬が多くこの筋から出た故とかで、鳥のメジロと地名の関係はないそうだ。

●網の仕掛人は駆けつけたパトカーの中だった。●去年は5月22日午前9時30分頃と、同29日の午後4時20分頃、雑司ヶ谷霊園で場所を違えて、それぞれ3、4声ほどホトトギスの声を聞いた。霊園でホトトギスの声を聞いたのは生まれて初めてだったので感動した。

●文化8（1811）年金子直徳著『若葉抄』には法明寺東側辺を草木山といい、ホトトギス・ウグイスの名所と記している。また、天保9（1838）年斎藤幸成著『東都歳時記』には、ホトトギスは「雑

司が谷など10か所が有名。おおかた立夏を過ぎてから鳴き始める云々」と陰暦4月の項に記している。「目には青葉、山ほととぎす初聲」江戸っ子のホトトギスに入れ込んだ思いを感じる。ホトトギスの鳴き声は聴く人によって昔から色々に音釈されているが、今は特許許可局（トッキョキョカキョク）が一般的だ。

●毎年霊園では、3月から初夏にかけてウグイスが耳を楽しませてくれるが、ホトトギスはこのウグイスの巣に一卵を預け、ウグイスの卵一つを巣から落とす。9日～10日にかえった雛は残りのウグイスの卵をみんな捨てて、巣を独占するのが習性だという。霊園でもこんなドラマが展開されているのだろうか。

●俳誌『ホトトギス』発刊に寄せて子規の句に「新年や鶯鳴いてほととぎす」がある。歌では「夜啼く鳥がいたならば、それは私のほととぎす」と星野哲郎の『不如帰』。「捨てて別かれた故郷の月に、しのぶ今宵のほととぎす」の『勘太郎月夜唄』。百人一首では藤原実定の「ほととぎす鳴きつる方をながむれば・・・」。みんな夜啼く鳥と歌われている。さて今年も初夏、また霊園で、あの甲高い声が聴かれるだろうか。

4月から「建替え相談」が変わります

いつでもご相談に応じます

今年度の建替え相談は、雑司が谷区民集会所で行ってききましたが、4月からはこの区民集会所での相談所は開催いたしません。街づくり公社にお電話いただければ、必要に応じて公社の相談員がお宅に伺いご相談にお応えします。また、公社では随時、相談窓口を開設しております。建替えを計画中の方は是非ご利用ください。

●連絡先 (財)豊島区街づくり公社
事業推進課 街づくり第2係
☎ 3981-1111 内線2883



47

 1998・3

●企画・発行

雑司が谷地区まちづくり協議会
財団法人 豊島区街づくり公社
☎ 3981-1111 (内) 2883 / 房野・根岸
豊島区都市整備部地域整備課
☎ 3981-1111 (内) 2862 / 黒岩・那須

●編集協力

財団法人 都市防災研究所
☎ 5706-6031 / 小野

豊島区広報印刷物 H20-09-203

ぞうしがや

不燃化助成のこれから

まもなく14年

雑司が谷地区で不燃化促進事業がはじまってまもなく14年になります。当初の10年に加えて、事業期間を延長して4年間が過ぎ去りました。

この不燃化促進事業は、当初の10年は国と東京都から補助金を受けて行こなわれました。10年の期間が終了した段階で、国としての事業は打ち切れ、現在は都の補助を受けて行われています。4年前、事業が終了する時に、延長が認められるかどうか、実は微妙な問題でしたが、なんとか都の協力を得ることができ、事業が延長されたという経緯があります。

都の補助はあと1年

しかし、東京都の事業の延長期間は5年となっています。つまりあと1年で、都の事業は終わりになります。予算の状況からは、再度の延長は難しいと考えられます。

不燃化促進事業の助成金は、国や都の補

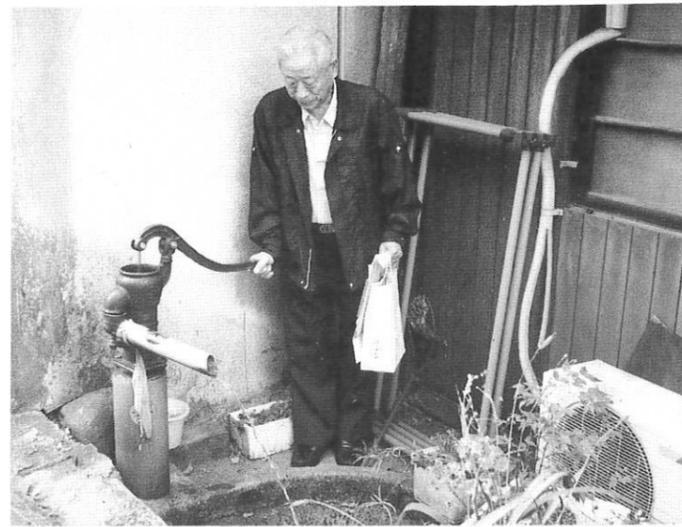
助を受けて行ってきましたので、区の負担は1/4で済んでいました。ところが、都の補助もなくなると区が全額を負担しなければなりません。これは区にとっては非常に厳しいものとなります。

建替えはお早めに

平成11年度以降の不燃化促進事業をどうするかは、これから検討を始めることとなります。しかし、区の財政状況からは、このまま事業を続けることは困難な状況にあります。あるいは、事業は続けても、今までと同じ助成金を出すことができなくなるかもしれません。

現在の助成金を得るためには、平成11年2月までに建物が出来上がり、登記を済ませることが必要です。そのためにはあと1年しかありません。設計や工事の期間を考えるとぎりぎりの時間しか残されていないといえます。建替えを計画されている方はお早めにとりかかるようにしてください。

雑司が谷地区 防災マップ 完成



協議会では地区内の井戸を1軒1軒調査しました

まちづくり協議会では、地区の防災計画や、災害時の活動に役立てるために「防災マップ」を作成しました。この防災マップには、震災に備えて、「みち」、「みず」、「みどり」に関する情報が集められています。情報は、すでにある資料を整理したものにくわえて、協議会委員が街を歩き捜したり確認した貴重な情報もおさめられています。

この防災マップは全戸配付されます。どうか、家庭内の目につく場所にはって、いざという時に役立つようにご活用ください。

お鷹部屋の高札完成

雑司が谷墓地の中に、このほど「お鷹部屋の高札」ができました。

雑司が谷墓地のあたりには、江戸時代、幕府のお鷹部屋があり、当時の松の木がそのまま残っています。それを聞き及んだ元協議会委員の矢島勝昭さんが、霊園事務所にかけあい高札をつくってもらったものです。

高札に描かれた鷹匠のイラストは、矢島さんの手によるものです。墓地を通られる時にご覧になってください。



協議会では、インナーリンク(墓地廻りの道)の整備を要望しています。これは、万年塀で囲まれた墓地では避難しにくいというのがその理由の一つになっています。インナーリンクは諸般の事情によってなかなか実現しませんが、避難上、最低限必要な所には入口を増設していただくように、協議会では東京都に要望していました。

このほど、入口の間隔が最も遠い、墓地の南側の下水道局の近くに、新しい入口ができます。これによって、雑司が谷2丁目の方々が墓地に避難するさいに、よりスムーズに入れるようになります。

**もうすぐ墓地に
新しい入口ができます**



東通り 全線完成

これまで10年にわたって行われてきた東通りの拡幅事業が完成しました。当初の提案からは16年の歳月がかかった、豊島区で初めての道路拡幅事業は、全線への歩道設置や一方通行化、拡幅部分での買収などいくつもの難関を乗り越えて、地元の皆さんのご協力のもと、晴れて全線完成となりました。



完成した東通り拡幅部分

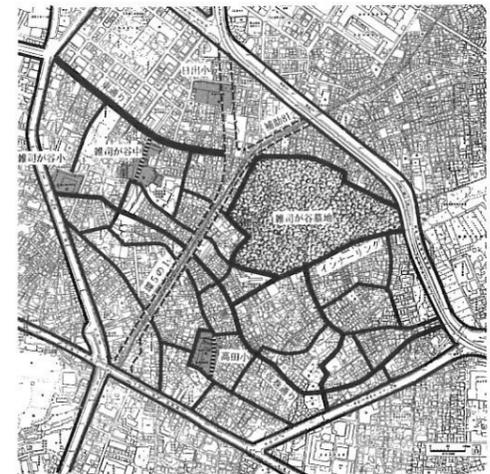


まちかど広場

協議会では、今、地区内の道路が災害時にも通行しやすくするにはどうしたらいいか検討しています。防災マップを作ってみて、改めて地区内の道路が狭く、そのまわりにはブロック塀などの危険物がたくさんあることがわかったからです。協議会では、地区内の主な道路を「地区内避難ルート」と位置づけて、災害時にも安全に雑司が谷墓地に避難できるようにしたいと考えています。

道路の整備と言っても、東通りのように用地買収によって道路を拡げるだけではありません。ブロック塀などの危険物をなくせば、安全性は格段に高くなります。電柱を移設できれば、人や緊急車が通れる幅が広がります。また、沿道の建物が少しずつ後退して、道路空間に余裕をもたらすことも考えられます。

協議会では、このほど、雑司が谷2丁目に計画されているマンションに対して、上記の避難ルート確保と周辺地区の防災性の向上を目的とした要望書を提出しました。この敷地は、目白通りと高田小学校を結ぶ位置にあります。現況の狭い道路に消防車が進入できるような幅員に整備できると、災害時の避難やふだんの安全性の向上に大きく貢献できます。



雑司が谷地区 地区内避難ルート

地区内避難ルート案

避難ルート確保のための要望書提出